

バスケットボール授業における技能向上に関する研究
～スペーシングの重要性に着目して～
A study on students' basketball skills
～ How their skills improve through learning “spacing” ～

1K03B160—8 福島 孝太

指導教員 主査 友添秀則 先生 副査 吉永 武史 先生

本研究は、バスケットボールの経験者、未経験者を問わず、バスケットボールの指導を行う上での重要な示唆を与えてくれると考えられる。この研究で、バスケットボール授業のスペーシングの重要性、技能向上に向けての課題を明らかにし、スペースを作るためのルールの創意工夫を行い、学習者が限られたスペースの中でも個人技術を活かせることが出来るようになればと考えている。

ハーフコートでのセットオフフェンスでは、限られたスペースを有効に使用することが重要になる。ドリブルやパス、シュートといった個人技術をゲームの中で活かすためにも、スペースの作り方や活かし方を習得する必要がある。セットオフフェンスにおいてメリットならびにデメリットを比較しながらスペースの重要性について調べていく。

研究方法として、バスケットボールに関わる技術書や理論書、スポーツ方法学関係の論文や雑誌をもとに、技能向上に関する資料を集め、「スペースの重要性」「技能向上の方策」について調べたい。

第一章 バスケットボールにおけるスペーシング

バスケットボールにおけるスペースとは、攻撃を行ううえでのプレーヤー同士の間隔のことである。スペースを作り出すために必要な条件とは一体何であろうか。考察の一つとして、スペースを作り出すために、パスを受ける者がディフェンスをフェイントなどでうまく振りきり、ボール保持者と一定の距離を保ってパスを受けることが、スペースを確保するために必要な条件と言える。

二つ目に、視野を広くもつことが考えられる。より広いスペースを作り出すためには、コートを広く使うことが大切である。そのためには各プレーヤーが視野を広くもつことが必要となる。目線をしっかり上げてプレーを行うことによって、周りの状況を把握することが可能になる。

三つ目に、エントリーの有効性が考えられ、相手のセットディフェンスに対しガードがどこの誰にパスをして、自分達のオフフェンスを始めるかを計画することである。言い換えれば、チームオフフェンスの入り方である。ボール保持者のプレーヤーのポジショニングが重要なカギとなる。

第二章 中学生のバスケットボール技術の現状

ここでは、体育授業で行うバスケットボールにおける悩みや

難しさについて列記していく。

①ボールコントロール技術の低さや、ゴールの高さの問題があり、なかなか届かない子どもも多い。②ボールに対する恐怖心が考えられる。攻守が入り乱れたゲームであるため、パスが繋がらない。また、どこに動いたら良いのか、誰にパスをしたら良いのかなどが判断できず、ゲーム中にボールにほとんど触れない子どももまれではない。③常に流動しているゲームであるため、チームの作戦が実際のゲームで活かせないということがある。

これらを整理し、状況判断の大切さや技術を構成する側面などの説明をしていく。

第三章 スペーシング技能向上のための方策

ここでは、1節で状況判断をどう教えるか、また、状況判断能力のトレーニングについて研究し、2節においては戦術理解の構造とその発達について戦術トレーニングを中心に研究する。その内容として、どんなに優れた技能を持っていても、それを、いつ、どのような状況で使うべきかという判断能力がなければ、有効なパフォーマンスには繋がらない。状況判断がどのような情報処理の過程を経て行われるのか、判断する力を育てるためにはどのような学習環境をデザインする必要があるのか考える。

3節では、戦術理解を課題とした実践例の検討の中で、小学校6年生での「侵入型」ゲームの実践についての1つの例を紹介する。テーマは子どもにとって「やさしく、そして関わりのある体育授業」である。シュート場面を視点にした教材の評価を行うとともに、「形成的授業評価」、および「仲間づくりの授業評価」によって本実践の成果の一端を検討する。

結章 本論文のまとめ及び今後の課題

授業場面で、生徒一人ひとりの個性を伸ばすと共に、バスケットボールの楽しさを理解できるようにルールの創意工夫によって、スペースをとらせること、状況を判断し、適切なポジションを確保することが必要である。本研究での考察で「頭の中で理解する技術」、「スペースは個性を発揮する土台」、「時間を有効に使い、有利にオフフェンスを展開する」の3つが明らかになった。

今後の課題として、一人ひとりが主体的に取り組むバスケットボールを目指し、生徒の発想や工夫などを大切にしながら、援助（指導）することが重要であると考えられる。